
けいおん！～奏でし天才～

蒼空の狼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

けいおん！〜奏でし天才〜

【Nコード】

N5823P

【作者名】

蒼空の狼

【あらすじ】

海外から帰国した天才の財閥のトップが桜ヶ丘女子高等学校に転入して軽音をやっていく物語です。

勿論、最後はハーレムエンドです。嫌いな方は読まないことをお勧めします。主人公天才系が嫌いな方も読まないことをお勧めします。ご都合主義が嫌いな方も読まないことをお勧めします。原作キャラの崩壊とかも起きる可能性もあるのでこれも嫌いな方も読むことをお勧めしません。

もし、批判等の感想やレビューを頂いても取り合いません。私はキチット最初に警告を出したのですから。文章構成がおかしいと言った、作品の質の向上についての物はいつでも聞きますが、先程上げた、警告に関するものでしたら一切取り合いません、これは私が思いついた妄想・厨二病全快の作品なんで。

主人公紹介（前書き）

この小説は、作者の自己満作品です。投稿はかなり不定期です。あらすじの最後の方にも書きましたが、警告に関する感想・レビューは一切取り合いません。

主人公紹介

唐突ではあるが我らが主人公の真崎 刹那の自己紹介をしたいと思う。

名前：真崎 刹那 しんざき せつな

年齢：16歳

身長：182?

体重：68?

白銀の腰まである長髪で髪は結って居らずストレートである。瞳は翡翠と深紅のオッドアイである。肌の色は褐色でどちらかと言えば赤銅色に近い肌の色合いである。これら全てが生まれつきの物である。また、彼は、顔立ちが中性的でありと同時に髪を伸ばしているのも起因してか女性の良く間違われる事がある。

これは、本人談ではあるが、間違われる事にもう慣れたそうである。しかし、ナンパされるとかなりの嫌悪感示すのはご愛嬌だそうだ。

彼は、世界中にその名が知れ渡っているハーバード大学に、オックスフォード大学、ウイーン国立音楽大学と名だたる三大学を各大学を圧倒的なまでの実力で二年で卒業した天才である。

また、彼が所有している資格はかなり多い。例えば、弁護士資格（米国マサチューセッツ州）といった、取得が現実的に見て超が付く難関資格を多数保有している。

また、彼自身その資格を生かす職に就くのではなく、真崎財閥のトップに収まっていたりする。

彼は、ウイーン国立音楽大学を卒業後そのまま、日本に帰国。因みに日本に帰って来たのは六年振りとなる。

彼の家系は真崎財閥という財閥の家系である。勿論、彼の両親は健在であるが、息子の方が優秀な為に、息子に財閥の事は一任して、当の二人は旅行をしている。

真崎財閥：この財閥は主人公の真崎 刹那が財閥のトップに就任するまでは、国内では中堅クラス、国外では小規模な財閥であったが、刹那がトップに就任してから業績が一気に良くなり今では世界トップクラスの財閥に成長した。

この真崎財閥の子会社は優に300を超すとされている程の財閥である。

彼に付いて他の事については又後ほど・・・

主人公紹介（後書き）

まあ、何でもありですね。

それから、これから先は、後書に人物紹介を挟みます。

プロローグ（前書き）

プロローグになってないプロローグだと思う……
まあ、気にしないでください。

プロローグ

桜吹雪が舞う、四月。

まだ、日も上がっていない早朝に一軒の家に向かい、BMW社のBMW 6シリーズ カブリオレが疾走していた。

運転席には、燕尾服を着込んだ初老の男性が座り、助手席には、白銀の髪を風に靡かせて眠り扱っている中性的な顔立ちをしている人物が座って居た。

「刹那様。新しいご自宅に到着致しました。起きて下さいませ」

燕尾服に着込んだ初老の男性が、助手席に座り眠っている人物・刹那と言う名前の人物に起きるようにと声をかける。

「ん？爺、着いたのか？」

刹那と呼ばれた、人物は若干高い声で、自身を起こした人物に尋ねる。

「はい、刹那様。到着致しました。此方が新しい自宅の鍵になります」

爺と呼ばれた初老の男性が懐から真新しい電子キーを刹那に差し出す。

「ん、電子キーか……セキュリティー面は万全と行った所か？爺」

受け取った電子キーを見てふと囁く。

「はい、勿論でございます。それから、剎那樣のお荷物は既にご自宅の方に搬入は終了しています」

剎那のふとした囁きに爺は律儀にも答え、引越しも終了している事を剎那に伝える。

「そうか、流石は爺だな。伊達に真崎に四十年も仕えてはいないな」
剎那は爺から受けた引越しが終了しているという報告を聞いて、その手腕に驚く。

「有難うございます、剎那樣。さて、剎那樣本日のご予定は、今度入学される私立桜ヶ丘高等学校の理事との御面談があり、時間は午前8時となっております」

爺は今日の予定を剎那に伝える。

「ん、了解。他には？」

「副総裁から、日本に戻って来ているなら、一度でいいから本社に顔を出して欲しいと嘆願書が来てますが？」

爺から今日の予定を聞いた剎那は頷き、了解の旨を示し他の連絡事項を尋ねると、爺は一枚の封筒を差し出し、中身の内容を告げる。

「ああ……そう言えば、副裁に丸投げしてたな書類……」

差し出された封筒を見て剎那は何故？と考えるが、理由が直ぐに分かったのかため息を付く。

「なるほど、では本日の面談終了後に本社に向かいますか？」

爺も嘆願書が来ている理由が分かり納得した表情になり一つの方針を示す。

「そうだな、早めに行つてやるべきか。ただまあ、副裁は事務処理能力は高かったからあの程度の書類問題はないだろう」

刹那は爺が示した方針に同意の旨を示し、問題はない筈と自己完結する。

「ですな、あの方は事務処理の能力は素晴らしいですからな」

爺も刹那の言葉に同意する。

「では、刹那様。現在時刻朝の6時ですので面談まで、少し御休みになられては？」

「ん、了解。では、爺。後程な」

「はい」

爺と刹那は二・三言葉を交わし別れる。刹那は目の前にある新たな自宅に帰宅し、爺も車をガレージに止め刹那の後を追う家の中に入った。

プロローグ（後書き）

オリキャラ達のプロフィールは後程別途記述します。

今回は、少し、というか、大分と言うか話が飛んで、入学式当日から始まります。

面談の内容とか、本社に顔を出した時とかは、多分書くかもしれないし、書かないかもしれない……

多分書くと思うけど……外伝的に……（正直な話この二つって本編にあんまり絡む要素が少ないから外伝的な扱いで出現するかも……）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5823p/>

けいおん！～奏でし天才～

2011年10月7日00時40分発行